

# Campus News

静岡理工科大学 広報誌 [キャンパスニュース]

2016

2

Vol.47

## 特集

- 野球部 増田将知さんが3季連続ベストナイン受賞
- 自動車部が学生フォーミュラ大会電気自動車(EV)部門3連覇
- 地域創成フォーラムの開催
- “みんなで「やらまいか」プランコンテスト2015”の開催



力を集結し獲得した、  
電気自動車(EV)部門3連覇

9月1日～9月5日に開催された、「第13回全日本学生フォーミュラ大会」において、  
本学自動車部が電気自動車(EV)部門で優勝し、3連覇を達成しました。3連覇は  
大会史上2校目。



静岡理工科大学

輝く未来へ  
はばたく力を





# 学長挨拶

## 静岡に新しい建築学のムーブメントを

～建築を静岡で学ぶということ～

学長 野口 博

静岡理工科大学では、物や事の本質を探究する「理学」と、人間の生活に役立つ「もの」や「こと」の創造を目指す「工学」を軸に教育をほどこし、学生は主体的に学び、様々な体験を通して「専門力」と「人間力」を養い、地域社会へと羽ばたいていきます。

静岡県では、優れた建築の耐震技術、温暖な気候を活用した省エネルギー住宅、最先端の都市設計モデルのコンパクトシティなど、地域で活躍できる人材の育成が求められています。地域でのこのような建築分野の人材ニーズが高いにも関わらず、静岡県には、今まで「建築」を総合的に学べる学科はありませんでした。

平成29年4月に設置構想中の建築学科（仮称）では、高層建築の設計等に見られるように、本学の機械、電気電子、物質生命科学、情報の各分野との融合が欠かせません。この建築学科では、建築設計・建築デザインや、建築技術（構造設計・環境設備設計）を学び、生活する人々の文化と融合し、ものづくりから、ことづくりを目指し、新たな文化を創造する建築家・建築技術者を育成したいと思います。

具体的には、建築を基礎から学び、都市・地域での建築群、コンパクトシティのあり方、防災や減災などの研究を通して、静岡県に適したエコ住宅や集合住宅、公共建築など建築物のデザインや建築計画を考え、総合的に設計・施工できる建築家・建築技術者を育成します。

学科の特色としては、

- 1) 学生や市民の交流を生む大きな軒下空間を有し、製図室、CAD室（本学全分野の学生が利用）、模型制作室、講評室、アクティブラーニング室、研究室、実験棟などを完備し、活きた教材として活用する建築の新学び舎を建設
- 2) 建築デザインとアメニティの探究
- 3) 災害から地域を守る技術を養う
- 4) 実験・演習中心の少人数制教育を目指しています。



新校舎「建築学科棟（仮称）」完成予想図  
設計:古谷誠章（早稲田大学建築学科）+NASCA

## 遠州灘

毎年、成人式の時期になると、ヤンチャな「荒れる成人」のニュースが報じられる。しかも、大きく取り上げられるため、若者は荒れている、という印象を持ってしまいかもしれない。しかし、本当に若者は荒れているのだろうか。新成人が成人式で荒れた事件の件数を正確に把握するデータは存在しないと言う。つまり、荒れる新成人の報道を見て、若者が荒れているという印象を持ってしまうのは、単なる偏見である可能性が高い。偏見でものごとを捉えてしまうのは危険なことである。我々教員も、最近の若者である学生に対して、偏見を持たずに接しているのだろうか。本学にも新成人を迎えた学生が多くいる。「最近の若者は」と決めつけず、温かい気持ちで彼らを社会に送ることも大切なかもしれない。(K)



# 野球部 増田将知さん(電気電子工学科4年)が 3季連続ベストナイン受賞!!

本学野球部に所属する増田将知さんが、東海地区静岡学生リーグ戦において、3季連続(平成26年度秋、平成27年度春、秋)でベストナイン(遊撃手)に選出されました。

この成績は静岡学生リーグ戦が始まって以来の稀有なことであり、受賞にいたるまでの経緯や感想についてお話を伺いました。

——まず、静岡理科大学に入学するきっかけを教えてください。

理系の大学に進みたいと思っていました。進学理由は、大学野球部の坂田監督(入試広報推進課)が高校に来て、熱心に勧誘してくれたことが一番大きいです。

——入学後の本学への印象はどうでしたか。

緑が豊かなキャンパスで、静かな環境であるという印象と、野球部は、雰囲気良く、野球が好きな人間が集まっているという印象です。

——大学生活で、最も印象に残る出来事がありますか。

宮田大祐(人間情報デザイン学科4年)とは、一緒にベストナインを取ろうと誓い、お互いの安打数を競い合いました。しかし、監督からは、「個人の成績ではなく、チームのために何ができるのかを考えると」と叱られました。それからは、組織として、野球部が勝つために何が必要なのか、個人として何ができるのかを考え行動しました。

——3季連続でベストナインを受賞するまで、ターニングポイントはありましたか。



学生発案で練習時間を夕方から朝に変えました。夕方では、所用で参加できない部員がいて、満足な練習ができず、結果も出ませんでした。そこで、

監督や部員と話しを重ね、朝6時30分からの練習に切り替え、全員で同じ目標に向かって練習が出来たことが大きいと思います。しかも、宮田とは平成27年度春季に共にベストナインに選出されました。

——大学生活で得たものは何ですか。

伝える力を得られたと思います。大学生活では、研究でも企業の方へのプレゼンテーションなど、人と話をする機会が多くありました。その中で、自分の思いだけを言葉にするのではなく、相手が何を求めているのかを考えるようになりました。あとは、同じ志を持つ仲間です。

——これから社会に出るわけですが、どのような社会人になりたいですか。

これまで多くの方に支えていただきました。嬉しかったことは、藤田先生(教育開発センター)など、試合の結果を気にしてくださり、励ましてくださった方がいたことです。また、監督や小澤野球部部長(理工学部部長)が、僕たち学生の目線に立って、話を聞き、アドバイスをくれました。ですから、僕も相手の立場を尊重して、ポジティブな声かけやアドバイスができる社会人になりたいと思います。もちろん、野球も続けたいと思っています。

——最後になりますが、在学生の皆さんに伝えたいことはありますか。

まずは、大学生活に楽しみを見つけ、それを一緒に楽しめる仲間を見つけてほしいです。また、楽しみが見つけれずにいる学生は、自ら一歩勇気を出し、アクションを起こせば、「類は友を呼ぶ」と思います。結果は後からついてきます。

——本日はありがとうございました。

## 学生フォーミュラ大会 EV3連覇

## 学生フォーミュラ大会を振り返って

自動車部(SISTフォーミュラプロジェクト) 前部長 千頭和 優斗(機械工学科3年)

昨年の大会を終えて、まずはガソリンエンジン車(ICV)と電気自動車(EV)の2台が競技に参加出来たことを先生方や多くのスポンサー企業様、OBの皆さんにお礼申し上げます。

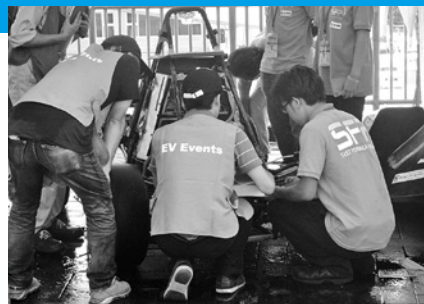
私がチームリーダーを務めた2015年度チーム(2014年9月中旬から2015年の大会まで)では、一昨年同様に下級生の人数が多く、チーム内で情報共有、報告・連絡・相談を意識しました。設計プロセスである、パッケージングレイアウトから全員で設計し、各



部品の設計を2、3年が中心におこないました。フレームを流用することで、他の部品の設計を重視することが出来ました。部品製作ではまだ技術不足があり、今後も改善し車両製作をしなければ

ならないと思います。

大会当日は、車検は無事通過したものの、動的競技でエラーやハブ破断というミスが発生し、目標とし



ていた全種目完走を達成することは出来ませんでした。順位としては、昨年もEV部門総合優勝を頂き、3連覇をさせて頂きましたが、内容的には満足いくものではありません。今年は全種目完走をしてのEV部門優勝は当然のこととし、エンジン部門も含めて総合入賞を目標とします。今後ともチーム一同頑張ってまいりますので、ご指導ご声援のほどよろしくお願い致します。

# 地域創成フォーラムの 開催



11月24日(火)、ホテルクラウンパレス浜松にて「地域創成フォーラム」を開催しました。通算23回目の開催となる今回のフォーラムでは、『建設業の未来構想とその実現に向けた活動』と題し、清水建設株式会社 技術戦略室 主査 金森洋史氏の特別講演をはじめ、本学の近況報告、研究活動紹介、研究活動に関するパネル展示等、懇談交流会が行われました。

特別講演では、清水建設株式会社が狙う宇宙未来構想について、月の鉱物などを利用したコンクリートの製造方法などを紹介いただきました。

また、研究事例発表及びパネル展示では、静岡県の試験研究機関担当者にも発表、展示にご参加いただき、公設試験機関等の研究紹介が行われました。

当日は約170名の地域企業、個人、自治体の関係者が参加し、本学教員との交流を深めました。

## ▶ 第2部 「静岡理科大学の近況」について

### ①静岡理科大学 産学コラボネットの活動計画

平成27年10月14日(水)に「平成27年度産学コラボネット総会」を開催し、今後は講演会の開催や情報発信媒体の発行などを実施することを報告しました。

＜産学コラボネットの役割＞

- ・本学教員のシーズを会員企業へ展開すること
- ・本学学生の会員企業への就職機会の拡大を図ること
- ・本学の教育に対する会員企業との関わりを深めること
- ・本学と会員企業及び会員企業間の連携機能を拡充すること

詳細については、本学ホームページをご確認ください。

<http://www.sist.ac.jp/news/20141104/index.html>

### ②建築学科(仮称)設置計画及び総合情報学部再編計画

- ・平成29年4月に静岡県で初めての建築学科(仮称)(入学定員50名)(予定)を設置することを計画し、新校舎の建設など、準備を進めています。
- ・総合情報学部は、教育内容の充実をねらいとして、平成29年4月から学部学科を再編し、「総合情報学部」は「情報学部(仮称)」へ、「人間情報デザイン学科」は「情報デザイン学科(仮称)」へと再編する計画です。

※計画の内容は10頁に掲載しています。

## ▶ プログラム

### ◎開会挨拶

#### 第1部 特別講演

「建設業の未来構想と  
その実現に向けた活動」

#### 第2部 静岡理科大学 近況報告

#### 第3部 研究活動紹介

(静岡県の試験研究機関担当者及び  
本学教員の研究内容の紹介)

#### 第4部 研究内容に関するパネル展示等

#### 第5部 懇談交流会





# “みんなで「やらまいか」プラン コンテスト2015”の開催



本年度から、“みんなで「やらまいか」プランコンテスト”を開催をしました。このコンテストは、本学に在学する学生が、「こんなものがあったら大学の知名度が上がる」「こんなことができれば大学に来る楽しみが増える」など、本学についての改善案や大学活性化に繋がるためのアイデアを考え、野口学長へ提案する企画です。募集の結果、11件の応募があり、書類審査を行い、4件が12月16日（水）に開催した最終審査会に臨みました。最終審査会では、学長を始めとする審査委員に対して、発表者から熱い思いのこもったアイデアのプレゼンテーションが行われました。

最終審査の結果、コンピュータシステム学科4年の原賀菜結さんが提案する「静岡理科大学クリエイターズクラウド」が学長賞を受賞しました。

最終審査会では、発表者に対し、審査委員から多くの質問がありましたが、発表者それぞれが、アイデアを提案するきっかけとなった日頃の大学生活を振り返りながら、重要性を伝えました。

野口学長からは、「皆さんから寄せられたプランは、どれも本学に必要なことと感じています。各アイデアを参考にし、大学活性化へ繋げていきます」との総評が学生に送られました。



## 学長賞

原賀 菜結 (コンピュータシステム学科4年)  
「静岡理科大学クリエイターズクラウド」

## 優秀賞

松本 将 (電気電子工学科1年)  
「大学生生活支援部の設置」

## やらまいか賞

お理工塾応援隊  
「rikoプロジェクト」  
静岡北高 高大チーム  
「学長杯争奪 綱引き大会 (学科対抗)」

### 学長賞・原賀 菜結さんのコメント



原賀さんは図書館コンシェルジュ(学生による学生のための学習支援活動)でも活躍しています。  
HP▶<http://www.sist.ac.jp/lib/libraryconciierge/>

いくつかの素晴らしいプロジェクトの中から学長賞に選ばれたことに、とても嬉しく思います。このコンテストに応募するにあたり、「一人一人の専門知識を活かせる場所を作りたい!」という想いをテーマに掲げました。本学には各種サークルや団体がありますが、もっと活性化できる可能性があると感じています。そこで、総合情報学部で解決できる方法として、それぞれの情報を共有できるサイトを構築し、刺激を与え合える「場所」を作ることを提案しました。

また、このコンテストを通じて、大学について考え、友人からの意見も参考にし、このプランを構築しました。今後は、この経験を活かし、残り少ない学生生活を充実させ、社会にはばたいていきたいと思っています。

## SIST体験型講座

7月4日(土)、9月26日(土)の2回にわたり、本学にて、市民の皆様を対象に「SIST体験型講座」を開催しました。第1回目は物質生命科学科の齋藤准教授が「自分の細胞からDNAを取ってみよう!—細胞の構造と構成成分を理解する—」、第2回目は人間情報デザイン学科の工藤教授が「自分のホームページを作ってみよう!」を実施しました。参加した皆様は、実験や体験を通じ、ものの仕組みや作成方法を学びました。また、今回の講座の続編を求める声も多く寄せられました。



## 留学生日本語弁論大会

7月14日(火)、本学にて「第6回留学生日本語弁論大会」を開催しました。留学生8名が、本学に留学し日本に滞在する中で、日頃感じている母国との生活や文化の違いなどについて、日本語で発表を行いました。発表者は、準備をしていた発表内容だけでなく、審査委員からの質問にも、自らの思いを込めて流暢な日本語で答えていました。



## オープンキャンパス

8月2日(日)・23日(日)・9月13日(日)の3日間、本学にて「オープンキャンパス」を開催し、高校生740名、保護者293名の延べ1,033名の参加がありました。学科ごとに体験型プログラムや展示ブースを用意し、多くの来場者に本学の研究内容を紹介いたしました。また、入試対策講座や保護者の方への説明会を実施し、本学への理解を深めていただきました。他にも本学教員による模擬授業を行い、参加した高校生の皆様は大学生の気分を満喫していました。



## お理工塾第2回夏のわくわく体験工房

8月9日(日)、本学にて「お理工塾第2回夏のわくわく体験工房」を開催しました。近隣の小学生191名が、モーターカー作りやシャボン玉実験など、夏の自由研究や今後の勉強に活かすことができる9つのテーマに分かれ、体験をしました。このイベントには、本学の学生サークルや研究室だけでなく、掛川工業高等学校や磐田西高等学校の生徒の皆様にもご協力いただきました。参加された小学生の皆様からは、たくさん笑顔が見られ、イベントは盛況のうちに終了いたしました。



## 市民体験入学

8月29日(土)、本学にて「市民体験入学」を開催しました。当日は県内各地から200名の皆様にご参加いただきました。全体講義では、メディア・タレントの立原啓裕氏が「心の癒しと発散でクリエイティブに生きる～自立訓練法の実践～」と題して講演を行いました。選択講義の座学講座では本学物質生命科学科の志村教授が、体験講座では機械工学科の吉田准教授、電気電子工学科の郡教授、物質生命科学科の宮地准教授、コンピュータシステム学科の幸谷准教授、人間情報デザイン学科のグレッグ マグナブ准教授がそれぞれ講義を行いました。参加者の皆様からは、今後も色々な体験学習をしたいという意見を多くいただきました。



## 高南寮クリーンアップ作戦

9月25日(金)、学生寮の高南寮に入寮している98名の学生が、「高南寮クリーンアップ作戦」を行いました。日頃お世話になっている寮への感謝の気持ちを込めて、寮周辺の清掃活動に汗を流しました。



## 公開講座

10月17日(土)、市民の皆様を対象に「平成27年度第3回公開講座」を開催しました。

第3回目は、「日本の航空機開発の裏話—HondaJet用エンジンを例にして—」を共通テーマに、第1部は機械工学科の園田教授が「航空機及び航空エンジンの発達と進化」と題した講演を行い、第2部は株式会社本田技術研究所 航空機エンジンR&Dセンター 企画室 上席研究員 野田悦生氏が「Hondaでの航空用ガスタービン研究とHondaJet用HF120ターボファンエンジンの開発」と題した講演を行いました。参加した皆様から多くの質問があり、航空機への興味、関心を強く感じました。



## 大学祭

10月31日(土)、11月1日(日)の二日間、大学祭実行委員会主催の「大学祭 SISTIVAL'15」を開催しました。「SPARK～はじけよう～」をテーマに、水ロケット体験教室、電気自動車レース、お理工塾応援隊によるサイエンスショー、ビンゴ大会などのイベントや、GLIMSPANKYさんと二人目のジャイナさんのスペシャルライブ、大道芸ロッキィさんのパフォーマンスなどが行われました。また、2日目には、本学同窓会主催の「ホームカミングデー」も開催され、多くの卒業生が来場されました。

在学生には思い出に残る、同窓生には大学時代を思い返す2日間となりました。



## 学長と学生との懇談会

12月8日(火)、「野口学長と学生との懇談会」を開催しました。

校友会などの学生団体や各学科の学生代表32名が、「学生生活の充実」をテーマに、野口学長と懇談を行いました。参加した学生は、学生生活の充実に繋がる施設面や学生活動へのサポートなどの要望や改善策について、野口学長と意見交換を行いました。



## 学長杯フットサル大会

12月20日(土)、本学テニスコートにて、クラブ連合委員会主催の「平成27年度学長杯フットサル大会」を開催しました。年末差し迫る寒空の中、7チームが参加し、若さ溢れる気力、体力で激戦が繰り広げられました。

サッカー部、フットサルサークルのメンバーが所属するチームは、1人少ないというハンデでの中でしたが、日ごろの練習の成果を見せつけ決勝戦を戦い、サッカー部が見事学長杯を手に入れました。







### 「建学の理念を活かして」

静岡県よろず支援拠点サブコーディネーター  
浜松信用金庫顧問  
経営革新パートナー代表  
中小企業診断士/ITコーディネータ

竹内 康博さん

静岡県よろず支援拠点西部地区袋井サテライトオフィスは、経済産業省と袋井商工会議所と静岡理科大学の協力で創設された全国初のサテライトオフィスです。小規模事業者が抱えるどんな課題でも相談に乗り、解決方法を一緒に考えることにより、地域の産業を発展させることを目指しています。これは、地域諸機関と連携して社会貢献を積極的に進めている静岡理科大学と共通する理念であり、注目される点です。

静岡理科大学の皆さんが建学の精神と理念である『社会に貢献できる人材』に育って頂きたいと私も願っていますが、その鍵は『大学の理念に応じた戦略と行動を学生一人一人が主体的に実践する』ことにあります。

具体的には、知識や技術を学ぶことに留まらず、(1)自分の力で考えて行動すること、(2)多くの人と交流して自分と異なる考えを知ること、(3)多様な人とチームを組めることを大切にされると良いと思います。



### 「他は是れ吾にあらず」

袋井山 観福寺住職  
日本宇宙少年団袋井分団 事務局長

西垣 隆英さん

私は寺の住職をしている傍ら、日本宇宙少年団袋井分団の事務局も務めております。静岡理科大学様のキャンパスをお借りして、小学2年生～6年生の50名ほどの団員たちに科学の実験、工作などの楽しさを伝えるお手伝いをしております。

修行時代に「他是不吾(他は是れ吾にあらず)」という言葉をお師より教わりました。他の人に何事でもしてもらっては、「自分でしたことにならぬ」ということです。

現代社会は大変便利になり、インターネットを使えば何でも調べられます。楽をして得たものは中々自分のものになりません。目で観て、耳で聴き、体で感じ、心に響いたものは決して忘れません。自分が体験したことは良いことも悪いことも含め、全て自分の肥やしになります。

理工科大生の皆様には「やらまいか精神」のもと、様々なことに挑戦し、創造し、宇宙少年団団員たちにとってあこがれの存在であってほしいと願います。



株式会社中央発明研究所 浜松TSC  
【出向先会社名】 アイシン・エイ・ダブリュ株式会社  
DC生技部 第3DC/加工技術グループ 第2チーム

大砂 裕司さん  
(物質生命科学科17期卒業生)

多角的な視野や新しいことに挑戦する上での土台となっています。

今後も技術者としての目標を高く持ち、自分の役割を会社というチームの中で生かすために日々努力し成長し続けていきたいと思っています。

## 活躍する卒業生

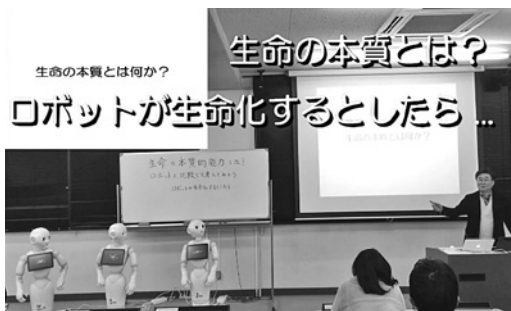
私の勤務する株式会社中央発明研究所は、ダイカスト用の含浸剤の開発・製造及び含浸剤を使用するための装置の設計・製作を行っております。「含浸」とは、目に見えない巣穴を封止する技術のことです。自動車部品やHDDなど身の回りで多く利用されています。私は今、会社が長年培ってきた含浸の技術を応用した粉体塗料の開発を行っております。私の目標は、お客様に求められる新製品を開発し、その製品が長年愛されることです。

開発の仕事は、知らないことや想定外のことがたくさん出てきて行き詰ることが度々あります。専門知識は入社後に教わることができそうですが、そのベースとして基礎知識が重要であり多くのことを学んでおく必要があります。

大学では、学ぶ環境が整っており多くの講義を受講することで幅広い知識を得られました。また、講義以外でも研究や学会など貴重な経験をさせて頂きました。これらの力は仕事を進めていく上で、



## 授業の紹介



1学年向けの「生物学」の授業の中で、「生命の本質とは？… ロボットが生命化するとしたら」というテーマで、ロボットのPepper君と一緒に実施した授業の紹介です。前半では、Pepper君とも比較しながら、「生命体を持つ本質的な能力とは何か？」について考えてもらいました。

後半では、「生命体を持つ本質的な能力をロボットたちに持たせることができるか？」をテーマに、「生命体の本質的な能力を、現実の地球上の生物とは別の形で実現することがあったとしたら、それも生命体と呼んで良いのではないか」という提示を行い、「生命とはいったいどんな存在なのか？」について改めて考えてもらう機会としました。その中で、我々人間が現代社会で実現している生命維持の方法についても触れ、人間の生命としての存在のあり方についても考えてもらう機会としています。

この講義の動画はNetで公開しています。検索サイトを“pepper 生命”で検索、又は表示のQRコードから是非ご覧ください。

担当教員：人間情報デザイン学科 教授 大相 弘順



pepper 生命 検索

## 航空システム工学研究室(機械工学科)

# おじゃまします。

社会生活に貢献する無人航空機システムの最適化性能を追求する研究室です。飛行しながら各種空中作業を行うためには、「どのような情報を得て」「何を考えて」「どのように動くか」が制御の基本となります。飛行の特性を活かして空撮・観測・監視・調査・測量・輸送などへ活躍の場を広げるため、想定されるミッションに適合した無人航空機としての最適化設計とその制御技術の確立に向けて研究を進めています。また、長年の企業勤務経験を活かし、研究室では卒業研究等を通して「社会人セミナー」として、エンジニアにとって大切な心得や考え方、感性を育てるように指導しています。



研究室訪問

第35回

### 研究室学生からひとこと

濱尾 和徳 (機械工学科4年)

研究室ではドローンの制御についての卒業研究を行っています。運動制御プログラム、GPS利用の位置制御、群制御や緊急時の操舵式パラシュートなど内容は様々です。全員が自分で研究内容を考え原理から調べてやっているので苦労はありますが、その分新しい発見があり、また個々に力がついていると思います。研究室内の雰囲気は自由な感じで、皆で楽しくやっています。研究室には2機のドローンがあり、飛行練習を兼ねて操縦技術を磨いたり競ったりするのも楽しいです。

### 研究室担当教員

田村 博先生

#### ■プロフィール

東京都出身。日本大学(学士)。ヒロボー(株)にて、産業用無人ヘリコプターや飛行船などの開発を担当。ラジコン模型事業部長(執行役員)、ラジコン模型工業会会長職を経て2014年4月に本学へ着任。

#### ■ひとこと

静岡県内に「航空機産業」が根付くように、現在は無人航空機を題材として用途に応じた機体や制御の最適化設計の研究を進めています。将来は「有人機」へ発展できるように研究グループメンバーで夢を語りあっています。

# 入試広報 NEWS

**理工科大がわかる！進路イベント開催します。** 春の訪れを感じられる本学キャンパスに足を運んでみましょう！

■春からの進路イベントで理工科大をCheckしましょう！

春は旅立ちの季節…。新しい進路に向けての準備を始める時期でもあります。

本学でもそんな皆さんの進路研究に役立つイベントを開催します。

「大学見学会」では本学の多岐にわたる研究室を巡りながら、私たちの未来や将来に役立つ様々な研究や施設を紹介します。また、「Weekday大学見学会」開催日は授業を実施していますので、普段の様子を伺い知ることもできます。さらに「オープンキャンパス」では、模擬講義の受講や学食体験などで、キャンパスライフを疑似体験することもできます。この機会を是非ご来学ください。

ー進路イベントの日程【3月～9月】ー

- 大学見学会 3/23(水)、5/22(日)、6/19(日) 開催時間13:00-16:00
- Weekday大学見学会 7/18(祝・月) 開催時間13:00-16:00
- オープンキャンパス 7/31(日)、8/21(日)、9/11(日) 開催時間10:00-16:00(予定、入退場自由)

## 普段の頑張りに応える！理工科大の「給費型奨学金制度」

進学したいけど学費が心配。

そんな受験生をサポートする制度が本学の「給費型奨学金制度」。本学入学試験の結果により、給費を得るチャンスがあります。

採用区分は、最大4年間で400万円の給費が得られる「授業料サポート100」、最大4年間で200万円の給費が得られる「授業料サポート50」のほか、入学金30万円を給費する「入学金サポート」、入学応援金10万円を給費する「入学応援給費」の4種類。自分の目的に合った選考方法で、普段の学習成果を発揮し、このチャンスを活かしましょう。

## 建築学科(仮称)設置計画及び総合情報学部再編計画について

### 計画の概要

平成29年4月に静岡県で初めての建築学科(仮称)(入学定員50名、4年制)を理工工学部に設置することを計画し、新校舎建設(平成29年2月竣工予定、骨造4階建、床面積3,089㎡)など準備を進めています。また、総合情報学部は、教育内容の充実をはかり、平成29年4月から学部名、学科名を名称変更する計画です。

### 1.建築学科設置計画について

建築学は、電気通信工学、機械工学に次いで工学分野において学ぶ学生数が多くおり、今後もその重要性は継続していくと思われます。また、地震や津波に対する防災・減災対策が急務であり、これらの知識を技術者として地域に活かすことができる人材の育成は重要で、大きな人材ニーズがあります。一級建築士(実務経験2年)、二級建築士、木造建築士、建築施工管理技士、インテリアプランナー、インテリアコーディネーターなどの資格取得をめざし、「静岡県を中心とする建築関連企業への就職」「大学院への進学」を目指します。

### 2.総合情報学部再編計画について

高度情報社会にふさわしい地域の産業創出と創造的人材の育成が地域産業界から求められていることにより、「映像制作」「感性認知心理学」「オペレーションズマネジメント」などの科目を新設し、情報技術と文化(感性の理解、芸術性ある造形など)・社会(リスク対策、商品化・事業化など)をもって、産業ニーズや生活文化の形成に応え、「プログラムづくり」から「情報技術を活用したコトづくり」へ拡充します。

現状

学部・学科		入学定員(人)
理工工学部	機械工学科	80
	電気電子工学科	80
	物質生命科学科	60
総合情報学部	コンピュータシステム学科	65
	人間情報デザイン学科	75
合計		360



平成29年4月

学部・学科		入学定員(人) (予定)
理工工学部	機械工学科	75
	電気電子工学科	65
	物質生命科学科	60
	建設学科(仮称)	50
情報学部(仮称)	コンピュータシステム学科	50
	情報デザイン学科(仮称)	70
合計		370



## 平成27年度 学長特別表彰・学部長表彰

優れた活躍や学生の模範となる顕著な成績を上げた学生を表彰する  
「学長特別表彰・学部長表彰」を行いました。受賞者は次の通りです。

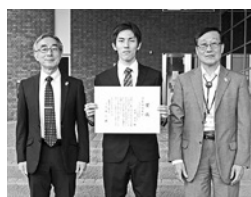
### 学長特別 表彰

- 個人 **大井 孝文** (大学院理工学部研究科システム工学専攻2年)  
平成26年電気学会産業応用部門研究会 部門優秀論文発表賞
- 個人 **増田 将知** (電気電子工学科4年)  
平成27年度静岡県学生野球リーグ戦  
ベストナイン賞(遊撃手)3季連続受賞
- 団体 **自動車部**  
第13回全日本学生フォーミュラ大会 EV部門 優勝



### 学部長 表彰

- 個人 **川合康太郎** (物質生命科学科3年)  
第59回東海学生弓道選手権大会秋季大会 入賞
- 団体 **Machine Creator's Factory (M.C.F)**  
第5回キャチロボバトルコンテスト 審査員特別賞



### 同窓会 だより

#### ホームカミングデーの開催

11月1日(日)に「第15回ホームカミングデー」を開催しました。当日は、卒業生やご家族、教職員など約350名の方が参加され、旧友や恩師との再会を楽しんでいました。昨年度同様「どきどきクイズ」を開催し、新たな同窓生の輪が生まれ、恒例の「大抽選会」とあわせ、おおいに盛り上がり、親交を深め合うホームカミングデーとなりました。また、参加者全員で学歌の斉唱をし、久しぶりに大学生気分を満喫する機会になったと思います。

最後に、ご多忙の中にも関わらずホームカミングデーの企画・開催にご助力いただいた同窓会役員の皆様に、この場をお借りして改めてお礼申し上げます。



#### 同窓会ホームページ、facebookについて

同窓会では、ホームページの他、専用のfacebookを開設し、同窓会員や同窓会活動の近況など発信しています。ご覧いただき、同窓生間の交流の手段としてもご利用ください。また、是非「いいね!」をよろしくお願いいたします。

(同窓会HPアドレス <http://www.sist.ac.jp/dousoukai/>)

(同窓会facebook <https://www.facebook.com/sist.dousoukai>)



### 後援会 だより

#### 父母懇談会の開催

10月31日(土)に「父母懇談会」を開催しました。約200名の方が参加しました。全体会では、伊東後援会長並びに野口学長の挨拶後、株式会社はあもにいの大野晴己氏をお招きし、「家族は就活応援隊 答えは子供にある～企業採用者から観た大学生～」と題して講演いただきました。続いて「学科別懇談会」では、本学教員から各学科の教育内容・就職状況等の説明を行いました。午後から実施した「個別面談」には、希望のあった約80名の保護者が参加され、助言教員からの説明に熱心に耳を傾けていました。保護者の皆様からもご意見を伺うことができ、貴重な時間となりました。



サークル紹介

弓道部 部長 荒井 萌希 (人間情報デザイン学科3年)



授業後に各自手段を見つけ、愛野公園弓道場まで移動しています。

毎年県・東海・全国など多くの大会に出場しており、結果を残せるよう修練を行っています。日々の修練では先輩・後輩関係なく、射形・的中率向上のために互いに意見を出し合いながら切磋琢磨しています。最近では個人での入賞が増えてきており、今後は団体での結果も残せるよう個々の力、団体としての力をつけていきたいと思

弓道部は、現在35名が所属し、毎週火・水・金の放課後に活動しています。私たちは活動場所が校外にあるため、

ます。

年間の活動は弓道だけでなく他大学やOB・OGとの交流、袋井市で行われるクラウンメロンマラソンへのスタッフ参加など多岐に渡っています。

今後も部員一同、弓道部の歴史を積み重ねていけるよう精進していきたいと思っています。



スポットライト  
がんばる理工科大生



高塚 裕規(左)・原田 隆司(右)  
(電気電子工学科3年)

原田君とは鳥人間サークルで1年の時に会いました。僕自身、高校は情報科を出ているのでプログラミングは強いのですが、回路を作るのが苦手で小さいころから電気工作をやっていた原田君によく助けてもらいます。原田君からプログラミングで相談があると相談に乗ることができるので凸凹コンビといますかうまいことかみ合って互いに助け合いながら授業の共同課題などをこなしています。

自分の知らない知識は教えてもらい、自分の知っていることを教えることで知識が深まり、この3年間で昔は手が出せなかった通信のプログラムやマイコンを制御するプログラムを製作が簡単にできるようになりました。友達と高め合いながら自分が成長できていると実感でき、これが大学だなと思います。

これからの時間も成長できるよう自分に力をつけていきたいです。(高塚)

私は鳥人間サークルに所属し、電装係をしています。電装では毎年、新機体に合わせた飛行制御システム、飛行ロガー等を製作・検証しています。

電装のミスは事故に繋がる危険性や、パイロットの機体に対する信用度にも関わるため、大きな責任が問われますが、やりがいもあります。

また、授業では習わない新しいことも満ち溢れているため、自分の探究心をくすぐり、一人でどうしても解決できない問題は、前部長で同級生の高塚君と顧問の先生と相談し、プログラムや回路を製作しています。

まだまだ力不足ですが、この時間、経験を大切に、残りの大学生活も愚直に努力を続けていきたいと思っています。(原田)

鳥人間サークルとは

正式名称「鳥人間を目指す飛行機研究会 -Sky Traveler-」は、鳥人間コンテストに出場することを目指して飛行機について研究しています。

編集後記

やらまいかプランコンテストのように、学生自らが大学運営に当事者意識を持つことは、学生生活の充実だけでなく、常に物事に問題意識を持てる学生への第一歩です。一方、野球部の増田さんの3季連続ベストナイン、学生フォーミュラEV3連覇のように、継続力は非常に重要です。学生の皆さんは、今後も様々な試みを考え、そして継続して力にしていきたいと思います。(M)

静岡理工科大学キャンパスニュース

平成28年2月15日発行

企画・編集・発行/静岡理工科大学 大学広報委員会

〒437-8555 静岡県袋井市豊沢2200-2

TEL.0538-45-0111 FAX.0538-45-0110

http://www.sist.ac.jp E-mail:c-news@ob.sist.ac.jp

